学校番号	2004

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	総合音楽	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年次の内容より、さらに深く掘り下げた授業です。受講者の得意なこと、挑戦したいことに合わせて授業内容を柔軟に対応していきます。２年次までには挑戦しなかった楽器に挑戦したり、歌唱力を高めたりと、あらゆる分野に挑戦することができます。

2　学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

（１）　曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。

（２）　個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。

（３）　主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身につけ、自分が行いたい表現を演奏で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを持ってどのように表すかについて表現意図を持ったりしている。また音楽を分析したり、解釈したりする力をもっている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	重唱	歌による表現を身につけ、仲間とのアンサンブルを楽しもう 「WINDING ROAD」	a:創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 b:各パートの役割や音の重なりなどを感じ取り、全体の調和を意識しながら創意工夫している。 c:この曲の由来に関心を持ち、複数の声部のかかわりやその演奏効果を生かして合唱することに主体的に取り組もうとしている。	・実技テスト	・実技テスト ・相互鑑賞 ・工夫した点の記述	・振り返り
	ギター	ギターのストロークを身に付け、リズムにのって弾き歌いをしよう 「カントリーロード」	a:創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 b: 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c: 曲想とギターの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	・発表会	・発表会	・発表会 ・振り返り

	アンサンブル	表現を工夫してアンサンブルをしよう 「自由曲アンサンブル」	a:各パートの役割や音の重なり方などを感じ取るとともに、全体の調和を意識しながら表現するために必要な技能を身につけ、創造的に表現している。また、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景とのかかわりを自分で調べ、そのかかわりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 b:音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを理解しながら、さまざまな表現形態の特徴を生かした音楽表現を創意工夫している。 c: 曲想と楽器の音色や奏法とのかかわりに関心を持ち、共通のイメージを持って楽曲にふさわしいアンサンブル活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。	・発表会	・発表会 ・グループでのイメージ共有メモ	・振り返り ・グループでのイメージ共有メモ
後期	和楽器	三味線と箏に挑戦しよう	a:創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受し ながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c:曲想と和楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	・実技テスト	・実技テスト	・振り返り ・練習の様子

	創作	音楽ウェブアプリケーションを使って、伴奏を作ろう 「カトカトーン」	a:音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージとかかわらせて理解している。 b: 創作表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持って創作表現を創意工夫している。 c:楽曲を作り出すことに関心をもち、イメージを持って創造的に音楽をつくることに主体的に取り組もうとしている。	・発表会	・記録表	・振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度